

パネルディスカッション

コーディネーター：佐藤公信氏（国立研究開発法人情報通信研究機構）、パネリスト：新井悠氏（トレンドマイクロ株式会社）、長谷川陽介氏（株式会社セキュアスカイ・テクノロジー）、富士崎真治氏（大阪地方検察庁）により、テーマ「サイバー空間が現実世界へ与える影響が大きいこの時代の人材育成とは」についてパネル討論が行われた。



左から、長谷川氏、佐藤氏、新井氏、富士崎氏

はじめに富士崎氏からはサイバーセキュリティについて犯罪になる場合の罪悪感の欠如や常識のずれについて説明された。セキュリティキャンプなどでは、もともとはトップの専門家を育てることを目的としていたが、最近はインストラクターを育てる取り組みも行っている。法律に対する意識の低い若い人に対しても、その人が持つ高い技術を大人が認めて理解してあげる環境や教育を行うことが大事である。

海外では小学生や中学生の年代の若年層からセキュリティ教育が行われる。日本では、メディアとの付き合い方の指導や、子供の行動の見守り（ダメージが大きくなるように）がよいかもしれない。また、怖い経験を疑似体験するための教育コンテンツを学生に作ってもらおうと学生にとって良いセキュリティ教育になるかもしれない、などの人材教育に関する議論が行われた。

サブプログラム会場：講演

国立研究開発法人情報通信研究機構（NICT）ナショナルサイバートレーニングセンター サイバートレーニング研究室 研究技術員 平田真由美氏による「できることから始めるセキュリティ～自社の安全と地域の安全～」のテーマで講演が行われた。



自社では得られない有用な情報の共有を行う「横の連携」、NICTER、SHODAN、INCECAMなどのツールを用いる「外部の活用」、トレーニングではなくセキュリティに注意を向けることを目的とした「Awareness」の重要性が説明され、「何を知らないのか」を知ることが最も必要だと述べられた。

サブプログラム会場：講演

株式会社三井住友信託銀行 関啓一郎氏により、「フィンテックの基礎とサイバーセキュリティ対策」というテーマで講演が行われた。



FinTech(フィンテック)とは Finance(金融)と Technology(技術)を組み合わせた造語で、個人端末が可能とした金融・非金融サービスである。フィンテックを支える技術や、フィンテックを巡る法律制度、世界で普及しつつあるキャッシュレス決済化について述べられた。